

神森クラブが ハンド日本一 小学生大会

ハンドボールの第37回全国小学生大会決勝が4日、京都府の田辺中央体育館で行われ、県代表の男子神森クラブが若国レインボーキ

（14面に関連）
前半からリードし続ける展開で14-7で折り返し、後半も堅守を発揮して追い上げを阻んだ。池田俊介主将は「最高の気分。コート上の7人全員が力を出し切った。堅い守備からの速攻で得点をするのができた」と声を弾ませた。（大城三太）

©琉球新報 無断での転載、改変、複製、頒布を禁止します

神森速攻で終始リード

全国小学生ハンド

ハンドボールの第37回全国小学生大会は4日、京都府の田辺中央体育館で決勝までを行った。男子神森クラブは準決勝でTSSQUARE京都に15-14で競り勝ち、決勝は若国レインボーキ（山口）を28-19で破って、9年ぶり5度目の全国制覇

を成し遂げた。決勝前半は5連続得点でスタートがツシユに成功。横へのパス回しや速攻を武器に終始リードする形で進め、14-7で折り返した。後半は序盤に追い上げを食らったが、粘り強い守備を続け、徐々に相手の得点を抑えた。10分過ぎのタイム明けに4連続得点でさらに突き放し9点差で勝利した。（1面に関連）

| | | |
|-------|-------|--------------|
| ▽準々決勝 | | |
| 神森ク | 15-14 | TSSQUARE京都 |
| ▽決勝 | | |
| 神森ク | 28-19 | 若国レインボーキ（山口） |



新垣、得点源として躍動

右45度の新垣凜之辰（りんのしん）が得点源となり、全国一に大きく貢献した。6月の県予選で全国切符を手にした後、「全国へ挑む意識が高くなり、みんなで2部練習をして成長することができた」と強い志で頂点をつかんだ。
身長158センチで競技歴は1年余り。ただ、ハンドボール一家で育ち、高校生の兄や小学生の妹も一目置かれる存在だ。「7月に急成長した。総合的に何でもこなせるし、得点するために感覚的に動ける選手（翁長誠光監督）」とめきめきと頭角を現し、全国の舞台で力を発揮した。
山口代表との決勝で10得点、開催地の京都代表との準決勝は7得点と、チーム一の得点を挙げた。「初戦と準決勝、決勝はめっちゃ緊張した。声を出して、足を動かして段々と緊張がほぐれていった。いろんなプレーで経験を積めた」と成長を感した様子だ。
全員守備を徹底し、ボストの荷川取昂河（こうが）、左45度の池田俊介主将らの攻撃力も総合力に厚みを加えた。荷川取は「俊介主将からのパスを受けてのシュートがうまく決まった」、池田は「守備に割って入り、狙い通りに得点できた」と成長と自信を手に入れた。（大城三太）

ハイライト

勝 決勝はめっちゃ緊張した。声を出して、足を動かして段々と緊張がほぐれていった。いろんなプレーで経験を積めた」と成長を感した様子だ。
全員守備を徹底し、ボストの荷川取昂河（こうが）、左45度の池田俊介主将らの攻撃力も総合力に厚みを加えた。荷川取は「俊介主将からのパスを受けてのシュートがうまく決まった」、池田は「守備に割って入り、狙い通りに得点できた」と成長と自信を手に入れた。（大城三太）

全国を制した男子の神森ハンドボールクラブ（提供）